

第8回独立行政法人農林漁業信用基金漁業災害補償関係業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和元年9月25日(水) 13時00分～14時08分
- (2) 場所 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階
独立行政法人農林漁業信用基金 第3・4会議室

2 出席者

(1) 運営委員

出資者：古寺委員、仲委員、成田委員、畠山委員、本多委員
学識経験者：碓委員、亀田委員、竹田委員、山下委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

(2) 信用基金

今井理事長、石井副理事長、出倉総括理事、森島理事、伊佐理事

(3) オブザーバー(主務省)

芳之内水産庁漁政部漁業保険管理官管理官補佐

3 提出議案

- (1) 平成30年度の業務の実績に関する評価及び決算について(報告)
- (2) 独立行政法人農林漁業信用基金の中期目標を達成するための計画(中期計画)の変更について(報告)
- (3) その他

4 議事経過の概要及びその結果

冒頭、山下委員長より、委員長代理として古寺委員が指名された。

次に、上記3(1)及び(2)の議案について信用基金から説明がなされた。運営委員からの主な質問等は以下のとおり。カッコ内は、これに対する信用基金の説明。

また、上記3(3)において、古寺委員より、漁業共済組合の組織の現状と今後の課題について説明がなされた後、各地における漁業被害の発生状況や、漁業共済及び積立ぶらすの仕組み等について出席者の間で意見交換が行われた。

【質問等】

(1) 平成30年度の業務の実績に関する評価及び決算について

- 資料中の数値の四捨五入により合計値と内訳が一致しないことは理解しているが、違和感を感じる。

(次回以降、表示単位を小さくするなど資料を工夫したい。)

- 主務省による評価書中に「評価対象となる指標」の項目があるため、一見すると定性評価ではなく定量評価のようだが、評価そのものは定性なのか。

(信用基金の業務は定量的な評価が困難なものも多いため、主務省から中期目標で定性評価とされたもの。定性評価を行うために判断する指標は定めている。)

- 「経費支出の抑制」について、平成29年度予算額対比の削減目標であると理解

しているが、そもそも予算額と決算額に差がある状態で、予算額対比を採用している理由いかん。

(当該目標値は中期目標で主務省が定めたものに準じている。)

(2) 独立行政法人農林漁業信用基金の中期目標を達成するための計画（中期計画）の変更について

○ なし

以上